

京都メディア・アート・ラボ



「世界の短編映画とNETによる
デジタル教育と地域の国際化推進プログラム」

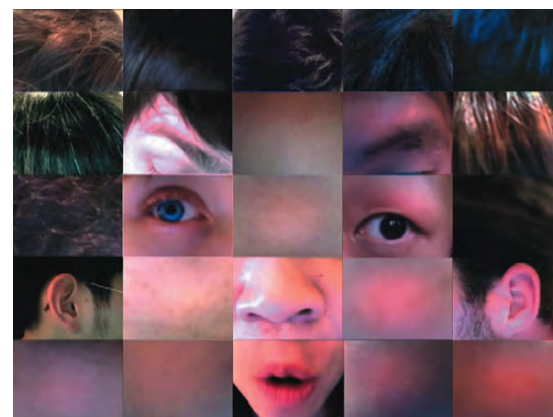
「京都国際インディーズ映画祭」を発表の場として2007年～2011年で第5回を実施

京都国際インディーズ映画祭という風穴！



▼各セクターとの協働事業

「文化庁・メディア芸術祭」
「C-MEX」「太秦シネマフェスティバル」
「Cr-kansai・近畿経済産業局」
「京都映像プラットフォーム」
「NPO遊プロジェクト京都」
「CON-CANムービーフェスティバル」
などと協働



「京都国際インディーズ映画祭」では、2007年から2011年で5回を迎え、世界のインディーズ映画作品上映の他、映画監督のレクチャーや遠隔中継など、会場と世界を結ぶ一体感のある映画祭をしている。実行母体である京都メディア・アート・ラボでは、京都府内の知られざる魅力を発掘・発見を目的に、映像制作をしている。



「日本の田植え」

制作：（京都南丹市）フランス博物館・日本紹介ビデオ（30分）



日本の田植え_01.jpg



水入れ.jpg



田植え.jpg



田植え_06.jpg



神楽神事.jpg



稲刈り.jpg



八朔祭.jpg



秋祭り.jpg

「SHINTO」（神道）日本のしきたり

制作：（日仏合作）編集：（京都・南丹市八木町・岡神社）日本の神事ドキュメント

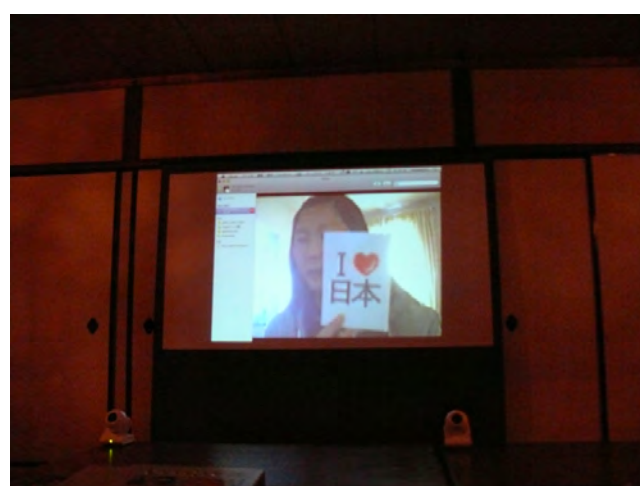
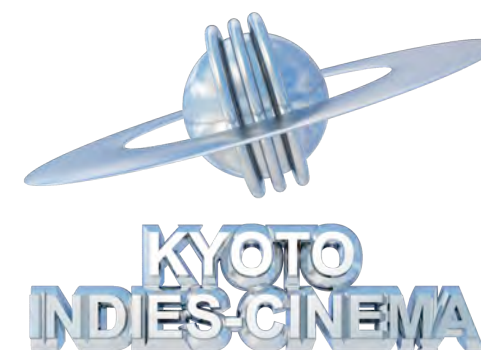
Shinto



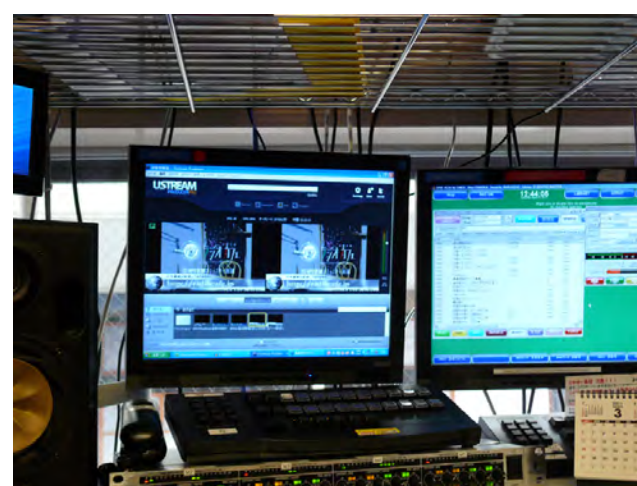
京都府南丹市＜岡神社＞の200年に一回の神社の新築の儀式、および八朔祭を日本の文化を紹介する映画化のために撮影した。厳かな神事に関わらず、地元の住民、氏子は本当に協力的であった。映画の完成を地元で協力してくれた人々は、早く観たいと声が上がっている。2012年8月完成予定。国際交流の一助にもなった映像制作だが、地元では、近年、神社の保存・維持に関して、維持費や出役などで様々な問題が生じており、古くからのしきたりや慣習が消滅の危機に瀕している。歴史を知ることによって解決につながると期待されている。

「京都発→世界」

ミニ上映会とレクチャーで感性を鍛え、学ぶ。
先端メディアをまとう。



Skype



YOU-Tube



映画関係では、2011年の＜温故知新＞では、日本の映画作家が遊子庵で2日間にわたって17作品を上映し、日本各地から京都上映に集まった。多彩な監督作品が、映画の町・京都を重厚にした。

その他、遊子庵では、映画上映の他、映像、NET、電子出版など先端のITとどう絡ませるかのレクチャーをプロを呼んで数多く講座を開催した。いずれも参加者は、すでにプロの業界の人が多く、活発な意見が交わされ、多くの新作プログラムや作品のプレゼンテーションが行われた

▼＜将来性＞＜独自性＞＜共感性＞：デジタル出版事業として

電子出版の基礎を作る。

デジタル教科書の作成：「I・2年生活科教科書」（2010年度文科省・日本文教出版）

「どっこい生きてるゴミの中」（京都舞鶴湾・保育社）

電子出版の一つの形。 大きな課題は、制作費の壁。



動画が見える。
音が聞こえる。声が聞こえる。
写真が動く。
書ける、消せる。
デジタル教科書、第一弾！
ついに完成！
2011年4月から全国小学校で採用！
（日本文教出版）

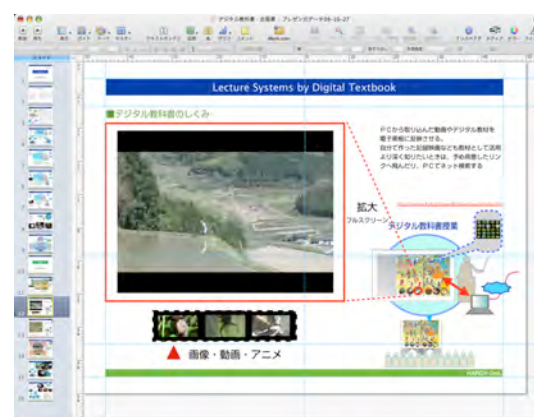
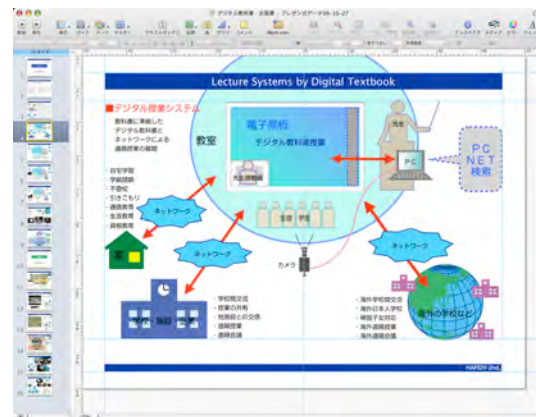


出版社とタイアップ、
電子出版WEBマーケットに挑戦！

京都・舞鶴湾を調査。
遅い魚たちから生き
方を学ぶ！

全国図書館協議会選定図書採択！

2012年度電子出版に
向けて作業継続中！



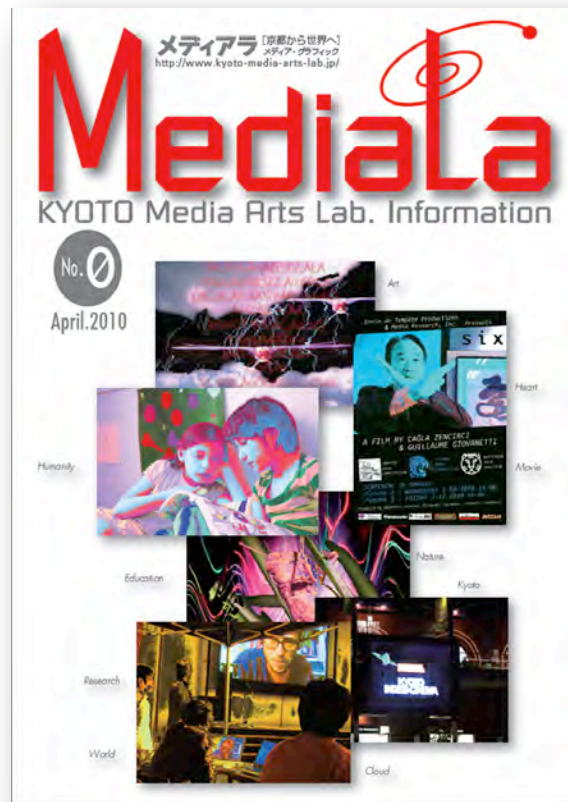
2010年度は、昨年度から継続した本事業の動画を活用した電子出版およびデジタル教材の具体化を推進させ、ようやく日本でも初といえるデジタル教科書の実現にこぎ着けた。

特に、近年デジタル教科書や電子出版がことばでは聞くが、具体的な形としては未知数のままであるが、ようやく本事業の支援もあって制作が実現した。完成版は、日本文教出版から2011年度の小学校I・2年生・生活科の教師用デジタル教科書として採用される。すでに他の教科書会社からも注目される内容で、動画、ナレーション、音楽、スライドショーが全く教科書と同じ体裁でありながら、それらの機能画動作する優れものである。もちろん書き消し機能も搭載された、まさしく紙の教科書がなくても授業が受けられる代物である。

★例えば、この度の3月11日に起こった東北大震災で多くの学校が流され、子どもたちが被災したが、こんな時でも、このデジタル教科書があれば、教科書がなくても授業ができる。このデジタル教科書は、電子出版の基礎であり、今後電子出版を推進する上で重要な見本となる。そのために、是が非でもモデルとして社会に提示したかった作品である。本事業の最大の成果である。

情報誌＜メディアラ＞の出版。

メディアの役割とは何か、を問い
生の情報を発信する。



ペーパー媒体として「Mediala」（メディアラ）を発刊。メディアで人と人を結びつけ、人間の可能性を紹介する媒体です。創刊準備号では活動のキーパーソンが登場。今後WEBと連携して、様々な情報とニュース、人をピックアップし、活動の成果やノウハウも公開する。

2011年度の発行は、3.11東北巨大地震をいち早く特集。現地に赴いたプロカメラマンからの情報を掲載し、後世の記録として残る貴重な資料となった。

特に震災特集号は、東北被災地にも送られ、また学校での講演でも使われた。また書店での配布でも好評で瞬く間に在庫がなくなってしまった。

「Mediala」（メディアラ）は、NETと映像、アート、教育の総合情報誌です。

京都から 世界へ

- 短編映画の教材化：映像&テキスト
- 世界の映像コンテンツの提供・配信：世界60カ国
- 映像制作&支援：撮影、編集、完成まで一貫
- 作品の発表、表彰：京都インディーズ&映像アワード
- TV番組コンテンツの提供：多チャンネル化シフト
- 制作指導、制作者の提供など

歴史 自然 文化 生活 教育 世界

Mediala
KYOTO Media Arts Lab. Information

映像・映画で
身近な生活価値を
発見し、記録し、
明日へつなぐ！



私たちの活動は、京都を情報の発信基地とし、地域に根ざし、着実に世界と結びつき、新しい価値の創造と伝道を担う者として活動している。本事業が、新しいこれからの社会の価値観の構築とスタイルの構築の一つのモデルになればと願う。





Ongoing!